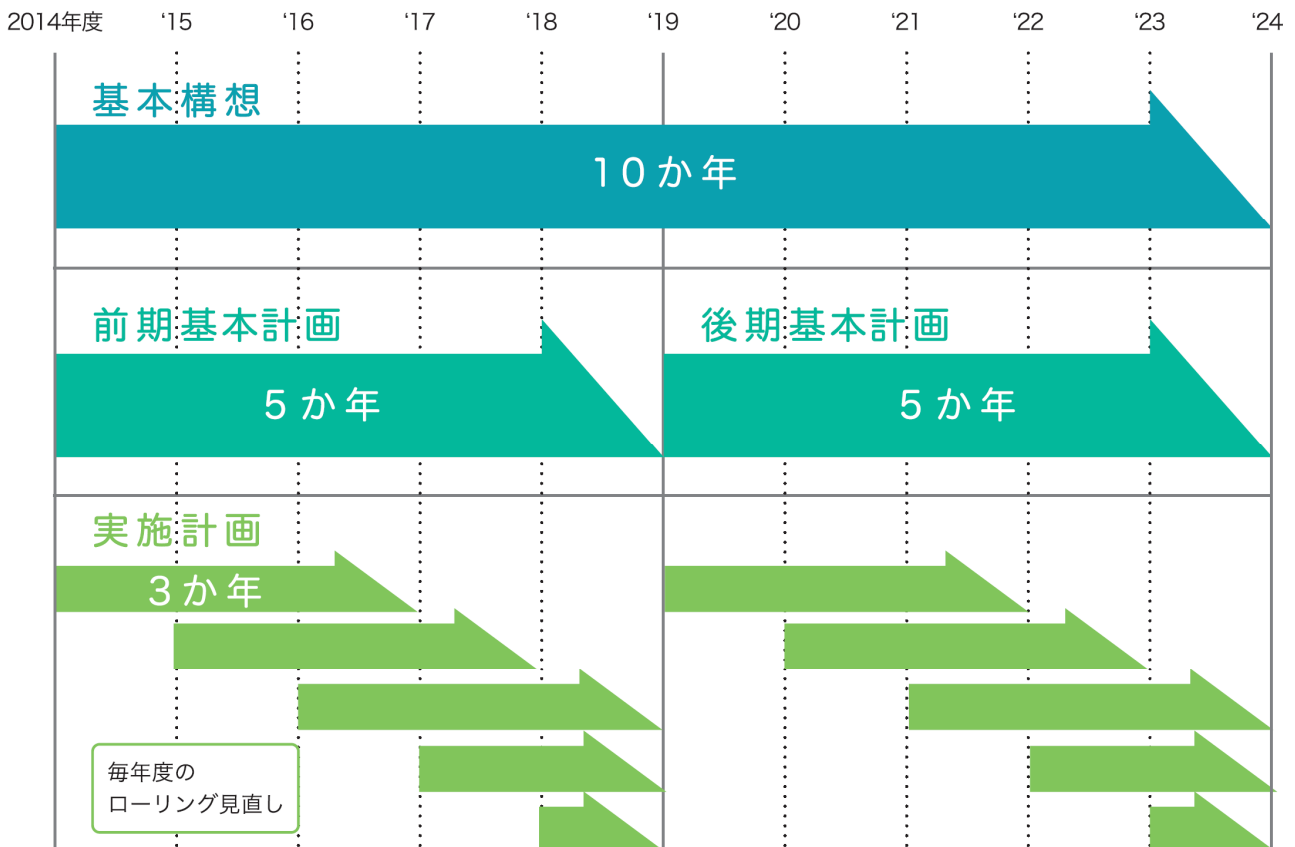
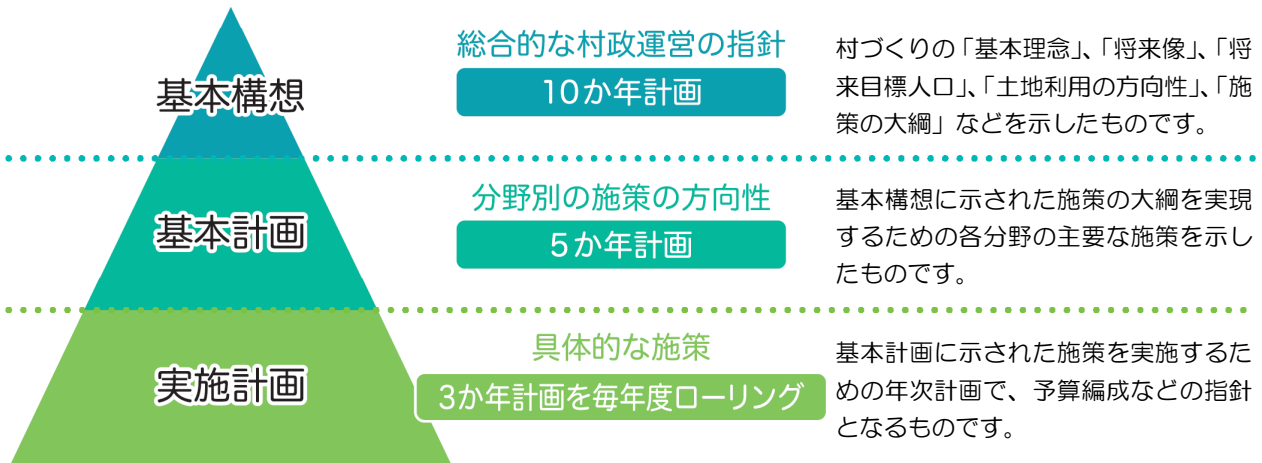


総合計画後期基本計画について

総合計画とは、将来の村づくりの目標を掲げ、村の今後の進むべき方向性や具体的な施策などを示した計画です。

総合計画

村の総合計画の構成は、「基本構想」、「基本計画」、「実施計画」の3層構造とします。

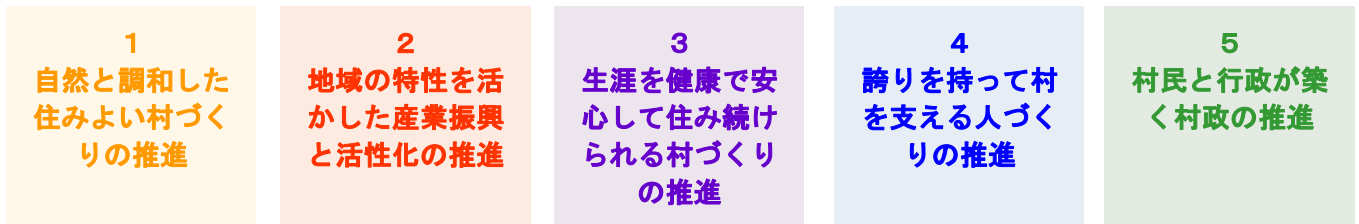


後期基本計画の体系

村の将来像

～水と緑の心の源流郷～

施策の大綱



分野別施策

1 自然と調和した住みよい 村づくりの推進

- 1-1 いつまでも暮らしたい、誰もが暮らしたくなる村づくり
- 1-2 自然を守り、次世代に引き継ぐ村づくり
- 1-3 環境にやさしく快適で暮らしやすい村づくり
- 1-4 暮らしを支える利便性の高い村づくり
- 1-5 地域ぐるみの安全・安心な村づくり

2 地域の特性を活かした 産業振興と活性化の推進

- 2-1 農林商工業の活性化による元気な村づくり
- 2-2 観光資源を活用した魅力あふれる村づくり

3 生涯を健康で安心して住み 続けられる村づくりの推進

- 3-1 健康で明るく暮らせる村づくり
- 3-2 だれもが安心して生活できる村づくり

4 誇りを持って村を支える 人づくりの推進

- 4-1 将来を担う子どもが輝く村づくり
- 4-2 心豊かな清川っ子を育む村づくり
- 4-3 生涯にわたり学び合える村づくり

5 村民と行政が築く村政の 推進

- 5-1 村民みんなで築く自治の村づくり
- 5-2 時代の変化に対応した村政による村づくり

重点プロジェクト

村の将来像を実現するための、今後5年間で村が重点的に取り組む「重点プロジェクト」

1 地域資源を活用し 村の未来を切り開く 施策

いつまでも暮らしたい、誰もが暮らしたくなる村づくりを目指して、地域資源を活用した取り組みを進めていくことが重要です。

2 持続可能な村づくりに つながる施策

人口減少時代を迎え少子高齢化が進む中、活力ある村づくりに向けて、より効果的な取り組みを進めていくことが重要です。

3 村民・行政の協働が特に 求められる横断的な 施策

①、②の村づくりは、豊かな地域社会を実現するため、村民と行政がそれぞれの役割と責任を自覚し、互いの自主性を尊重しながら官民協働の取り組みとして進めていくことが重要です。

重点プロジェクト 1. 村の魅力活用プロジェクト

「東京から一番近い村」という都心へのアクセスの良さと村の大きな魅力の一つである豊かな自然に囲まれた地域特性を活かして、起業支援などによる企業誘致及び基幹産業の※1 6次産業化に取り組み、自立した特色ある村づくりを目指します。



関連する主な施策

基本施策
1-1-2 宅地開発や企業誘致の推進
1-1-3 サテライトオフィスの整備の推進
1-1-4 移住・定住促進施策の充実
1-1-6 村の資源を活かした地域産業の創出
2-1-1 地産地消の推進
2-1-2 基幹農業への支援
2-1-4 事業者の支援
2-2-4 村の観光資源のPR

期待される効果

- 地域ブランドの創出
- 雇用の場の確保
- 職住近接のライフスタイル
- 子育て世代の移住・定住

地域活性化

2023年までの※2重要業績評価指標（KPI）

新規事業所の誘致数	新規雇用者数	特産品開発に係る 連携大学数 (短期大学を含む)	道の駅新規販売品目数 (村産品利用品目数)
10事業所	30人	1校	30品目

※1 6次産業化：1次産業としての農林漁業と、2次産業としての製造業、3次産業としての小売業等の事業との総合的かつ一体的な推進を図り、地域資源を活用した新たな付加価値を生み出す取り組み。

※2 重要業績評価指標（KPI）：各施策の進捗状況を検証するために設定する指標のこと。KPIはKey Performance Indicatorの略。

重点プロジェクト 2. 交流人口拡大プロジェクト

宮ヶ瀬湖周辺の活性化や道の駅「清川」のさらなる活用を図るとともに、村の自然環境・文化や^{※1}不耕作地を活用し、村内外へ発信することで、交流人口の拡大を目指します。



関連する主な施策

基本施策

1-1-6 村の資源を活かした地域産業の創出
2-1-2 基幹農業への支援
2-2-1 宮ヶ瀬湖を中心とした観光の振興
2-2-2 農林商工業と観光業の連携強化
2-2-3 広域連携による滞在型の観光の促進
2-2-4 村の観光資源のPR

期待される効果

- ^{※2}シティプロモーションによる村の知名度向上
- イベント参加者・来訪者の増加
- 地域資源の活用
- 不耕作地の減少

にぎわいの創出

〈2023年までの重要業績評価指標（KPI）〉

新規イベント数	観光入込客数	村ホームページアクセス数	不耕作地減少率
10件	230万人／年 (2017年 218万人)	100万件／年 (2017年 60万件)	10%

重点プロジェクト 3. 居住環境整備プロジェクト

子育て世代が住みたくなるよう、住宅・宅地の整備及び生活環境整備の推進、豊かな自然と調和した快適で安全安心な住環境の保持・整備に取り組み、定住人口の維持・増加を目指します。



関連する主な施策

基本施策

1-1-1 土地の有効利用と地域機能の維持
1-1-4 移住・定住促進施策の充実
1-2-1 豊かな水源環境の維持
1-2-4 鳥獣被害等防止対策の実施
1-3-4 安全でおいしい水の安定供給
1-3-5 下水道の適正な維持管理と水質の保全
1-4-1 公共交通の確保・充実
1-5-1 災害に強い地域基盤の整備
1-5-2 災害を防ぎ被害を減らす施設の機能強化
1-5-3 新たな危機事象に対応できる危機管理体制の機能強化

期待される効果

- 地域防災力の向上
- 鳥獣被害等の減少
- 生活利便性の向上
- コミュニティの担い手づくり

安全安心
快適な生活
環境の整備

〈2023年までの重要業績評価指標（KPI）〉

新規の賃貸住宅（空き家含む）・分譲地供給数	移住・定住促進施策による新規転入者数	防災訓練参加者率	野生鳥獣被害防止柵等設置事業補助金利用件数
30戸	200人	25% (2017年 21%)	30件 (2017年 6件)

※1 不耕作地：耕作した形跡があるが、現在は未利用となっている土地。

※2 シティプロモーション：観光客増加・定住人口獲得・企業誘致等を目的として、地域のイメージを高め知名度を向上させる活動のこと。

重点プロジェクト4. 清川っ子を育むプロジェクト

安心して子育てができるよう、引き続き高い水準の子育て支援に取り組むとともに、豊かな自然環境の中で子どもがのびのび育つよう、幼稚園・小学校・中学校が連携した村独自の魅力的な教育環境づくりを目指します。



関連する主な施策

基本施策

4-1-1 子どもが健やかに育つ環境の整備
4-1-5 保育園の充実
4-2-1 幼稚園の充実
4-2-2 学校教育の充実
4-2-3 地域・家庭との連携による幼児教育・学校教育の向上
4-2-4 学校教育環境の整備
4-3-1 生涯学習・生涯スポーツの環境整備
4-3-2 村の歴史・文化資源の保護と伝承

期待される効果

- 保育・子育て環境の向上
- 教育環境の向上
- 村への愛着の醸成
- 転出者の抑制・転入者の増加

未来を担う
人材の育成

〈2023年までの重要業績評価指標（KPI）〉

合計特殊出生率	保育所待機児童数	新規生涯学習イベント数	幼・小・中の連携事業数
1.42% (2017年 1.06%)	0人 (2017年 0人)	5件	幼8・小14・中8 回/年 (2017年 幼6・小12・中6)

重点プロジェクト5. 高齢者の活力創出プロジェクト

「人生100年時代」に向けて、高齢者が元気に生きがいをもって生活できるよう、健康づくりや気軽に集まり交流できる集いの場・学びの場を提供するとともに、高齢者向け福祉施設の整備を推進します。

また、生涯学習グループなどの団体への支援を推進し、高齢者がいきいきと活動できる元気な村づくりを目指します。



関連する主な施策

基本施策

1-1-5 生活利便性の向上
3-1-2 総合的な健康づくりの実施・充実
3-1-3 地域医療サービスの充実
3-2-1 高齢化社会に備えた体制の整備
3-2-3 地域ぐるみの福祉活動の充実
4-3-1 生涯学習・生涯スポーツの環境整備
5-1-1 地域コミュニティの育成・支援
5-1-2 地域コミュニティによる地域課題の解決の支援

期待される効果

- ※1アクティブシニアの増加
- 介護予防
- 生涯学習・生涯スポーツの振興
- 地域コミュニティの形成

健康長寿の
村づくり

〈2023年までの重要業績評価指標（KPI）〉

未病センターきよかわ利用者数	やまびこ検診受診率	介護予防教室参加率	高齢者向け福祉施設等の新規整備
400人/年 (2017年 300人/年)	40% (2017年 31%)	12% (2017年 10%)	1施設

※1 アクティブシニア：自分の価値観をもち、定年退職後なども、趣味やさまざまな活動に意欲的で元気なシニア層のこと。

実現化方策

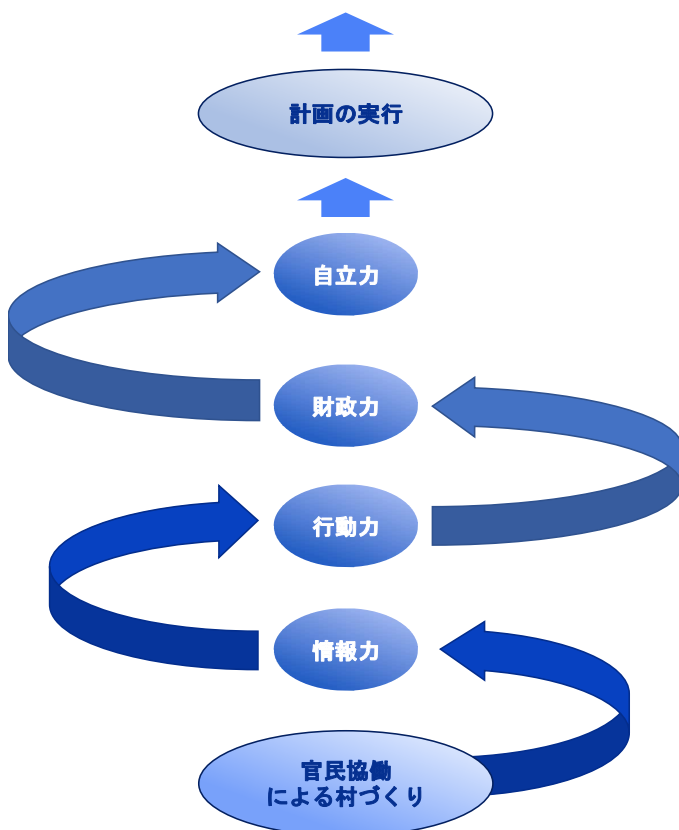
本計画の実現に向けて、重点プロジェクトや基本施策を着実に進めていくためには、実行性を確保し、より実効性を高める必要があります。

そのため、重点プロジェクトや基本施策の実施に当たっては、情報力・行動力・財政力・自立力の4つを推進力として位置付け、これらを念頭に置いて、「何を行うか」に加えて、「どのように進めるか」を意識しながら、円滑かつ着実に進めていくことで、より実効性の高い取り組みが可能となります。

これら4つの推進力は、個々に独立した考え方ではなく、相互に関連・補完し合うことで相乗効果を発揮するものであり、村づくりの主体となる村民と行政が活用しながら、協働して村づくりを進めていきます。

重点プロジェクトについては、それらの成果を評価・検証するために5年後の重要業績評価指標（KPI）を定め、計画の進行管理を行い、実現を図っていきます。

～ 水と緑の心の源流郷 ～



情報力

- ・最新の情報を得て、村づくりの現場へと活かしていくこと
- ・村民と行政の双方向の情報の流れを作り、情報を共有すること

行動力

- ・現場の状況に柔軟に対応し、必要に応じて軌道修正を図ること
- ・現場でのコミュニケーションやそこから得られた情報や気づきを大切にすること

財政力

- ・村の資源を効率的に活用し、健全で安定した財政を維持していくこと
- ・コストを意識した日々の取り組みから持続可能な村づくりを進めていくこと

自立力

- ・村民一人ひとりと行政が村づくりの担い手であるという思いをもつこと
- ・村民・民間事業者・行政が協力・連携して村づくりを進めていくこと

村民・行政のそれぞれが4つの推進力を活用しながら、清川村の将来像の実現に向けて、計画を実行していきます。